

CSカード年会費改定のお知らせ

※ 2019年度よりCSカード年会費を現行の2,000円から3,000円に見直させていただくことになりました。

公益社団法人 日本ビリヤード協会（以下、NBA）では、

- (a)事務所維持管理固定経費、 (b)人件費、 (c)国内統括団体として不可欠な対外的経費、
(d)CS管理に係る外注経費、 (e)事業運営に伴う諸事務経費、

を確保した上で、

- (1)協会主催大会を主管運営する協会加盟支部への補助〔改定前CSカード年会費の600円を支部還付金として〕、
(2)海外上部団体主催の国際大会への選手派遣、 (3)表彰・認定活動、 (4)アンチ・ドーピング活動、
(5)普及活動、 (6)次世代育成強化活動、 (7)広報活動、

などの事業を展開しております。

これらの事業は、

- (イ)皆様からのCSカード年会費、 (ロ)NBAの運営に参画する正会員からの年会費、
(ハ)NBAの加盟支部・種目別加盟団体からの年会費、
(ニ)NBAの加盟支部・種目別加盟団体からの大会主管に係る公認料など、
(ホ)加盟上部団体からの補助金、 (ヘ)NBAの活動にご賛同頂いた企業・団体からの寄附金など、

の収入で運営されています。

H29年度収入 約2,600万円	(イ)		(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)					
H29年度支出 約2,600万円	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)

現在の財務状況では(1)～(7)、特に(5)～(7)の事業展開に有効な投資が出来ておりません。現行の年会費を維持して積極的な事業展開を行うことは困難な状況にあり、成果が見える事業改善を遂行し、長期停滞傾向から脱却するために、導入以来20年間据え置いてきたCSカード年会費の改定を実施させていただくことにしました。多くの選手の皆様にご負担をおかけすることは心苦しい限りでございますが、何卒ご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

・国内での人気を復活させ、健全な形での普及と定着を目指さなくてはなりません。

少子化の今、若年層(青少年)への普及活動を強化して、次世代の担い手を創造することは、明日のビリヤードにとっての最重要課題ですが、現状でのNBA本部主導の施策はNBA加盟上部組織であるNRAJ(※注1)の企画イベントへの参加だけとなっており、今後はより積極的な取り組みが不可欠です。タレントを発掘しその育成強化に取り組むことも、国内競技レベルを高める上で必須といえますが、まずは現行のジュニアと学生を対象とした大会を全国的に厚みのあるものへと発展させないといけません。また、高齢化に伴っての生涯スポーツ推進や障害者スポーツ推進に向けても、より積極的な取り組みを行っていく必要があります。さらに、これらの事業効果を高めるためには、広報の見直しも必要となります。

NBAでは、このたびの年会費改定による増収を400万円前後と見込んでおります。

以上の事業の全てに即効性のある投資を行うのは困難ですが、一つずつ、着実に成果が望める部分に重点を置き、今後に向けての改善と補強を進めさせていただきます。

・国内での普及が、国際的な普及活動への貢献にも繋がります。

CSカード導入時に目標設定のひとつであったオリンピック種目採用は実現していませんが、国際的なオリンピックムーブメント推進活動は、皆様の年会費の一部から納入される加盟会費を活動資金に、現在も海外上部団体により継続して行われています。海外上部団体主催の国際大会に国内選手を派遣し活躍の場を提供すること自体が、国際的な普及活動への貢献となっております。また、国内選手の強化、選考、派遣には、国を代表する統括団体としての、JOC、JWGA、JADA、JSC（※注2）など国内上部団体への加盟が必須であり、補助金の助成を受けながらの事業展開が可能となりますが、これも皆様の年会費を活用させていただき、維持しております。

・事務所移転により業務の効率化と健全化を目指します。

このたび、他種目の競技団体と共に日本スポーツ協会・日本オリンピック委員会新会館（仮称）に事務所を移転し、行政による今後の管理が厳しくなることが予想される JOC、JSC、JADA の監視指導下に身を置き、国内統括競技団体として求められる業務の効率化と健全化を図り、今後のビリヤード発展を目指すための基盤整備を行うことになりました。移転に伴う当面の経費増は新規の賛助金などで賄う方針ですので、年会費の見直しによる増収見込みは優先的に(1)～(6)の事業経費に充当し、今日と明日のプレイヤーのために還元投資させていただくことを基本とします。

・多くの皆様が参加する大会の充実を図るため主管の各支部への補助を厚くします。

NBAは、公益社団法人として、賞金を掲げて射幸心を煽る形態及び営利目的での大会開催事業を主導することが厳しく制限されています。しかし、そのような制約のもとで、より多くの皆様に参加して頂けるように、企画と運営を見直し、必要な投資は行い、維持及び継続的発展が可能な事業形態に育てなくてはなりません。現在、実施されているNBA主催の大会の多くは、主管となった加盟支部がその運営を担当し、参加選手からのフィーと支部加盟店や支部会員からの会費や協力金を主な財源として成り立っております。本部からの補助(1)は本部への年会費(ハ)と相殺されてしまうために、現状としては、実質的な本部からの資金援助が来ていません。そのような状況のなかで、地域的な普及活動など様々な独自事業にも取り組んでいただいております。今回の増収見込みの一部は加盟支部への補助増額にも配分して、今後の大会基盤の充実を図ってまいります。選手、支部会員、支部加盟店の皆様におかれましても、NBA加盟支部への変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、これに併せまして、同じく数多く大会主管を担当している種目別加盟団体へのご支援ご協力も皆様よろしくようお願い申し上げます。

・皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

CSカード年会費の有効期限は現行年度制(4月1日から翌年3月31日まで)で、新規登録者へのカード発送は年に4回と当面の変更はございません。年度末の大会だけの出場者からの不満の声があることも承知しておりますが、管理と事務処理の効率化と経費増抑止に役立っており、切にご理解の程お願い申し上げます。この年会費は、公式大会参加の為の必須条件とさせて頂いておりますが、単なる選手登録料ではなく、前述ご説明申し上げましたように、その用途の本来の目的が明日のビリヤードの支えであることにご理解ご賛同いただき、今後も継続してご協力いただけますよう、皆様をお願い申し上げます。

2018年12月21日
公益社団法人 日本ビリヤード協会

注1: JARJ = 公益社団法人 日本レクリエーション協会 (National Recreation Association of Japan)

注2: JOC = 公益社団法人 日本オリンピック委員会 (Japanese Olympic Committee)

JWGA = 特定非営利活動法人 日本ワールドゲームズ協会 (Japan World Games Association)

JADA = 公益社団法人 日本アンチ・ドーピング機構 (Japan Anti-Doping Agency)

JSC = 独立行政法人 日本スポーツ振興センター (Japan Sport Council)